

# God With Us

## Part 7: Kings & Prophets to Exile and Return

### Judah's Fall and God's Faithfulness

#### Message 17 –God's Last Word

##### Malachi

### 神は我らと共に

#### パート7：王と預言者たちの強制退去と帰還

##### ユダのつまずきと神の忠実さ

#### 第十七メッセージ—神からイスラエルへの最後の言葉

##### マラキ書

### はじめに

預言者マラキは、キリストの誕生までの400年間の「沈黙の歳月」に入る前の旧約聖書最後の預言者であった。イスラエルの民は、モーセの時代（紀元前1440年）から、神と契約関係にあった。預言者マラキまでの1000年間、神の選ばれた民であるイスラエルは、神との契約の条件に従って生きることができなかった。この最後の預言者を通して、再び神は、不従順な民に向き合われた。マラキ書は55節から成る。その内47節は、神の砕かれた心の叫びである。義であり、あわれみ深い神は、最後にもう一度、民にしっかりと語られる。マラキ書の中で、神が用いられたご自身の名称は、「全能の主」または、軍事用語、「万軍の主」で、24回用いられている。それでも、神の忠実さは、マラキ書の締めくくりで、神がお約束された先駆者を指し示されたことによって明らかとなった。神の遣いであるバプテスマ（洗礼）のヨハネは、メシアの到来のための道を整えるために、エリヤの霊と力によってやって来る。

預言者マラキは、他の預言者たちと同様に、神の御心と神の確固たる真理に誤った人々、つまり霊的指導者（祭司たち）と彼らに従う人々の両方に語るという困難な任務を担った。神とその民との間で交わされる対話の中に現れる、神のメッセージは衝撃的である。神が民にチャレンジされ、民は神に質問する形で応答し、それらの質問に対して、神が正されたり、警告をもって答えられる。

### 神の心を悲しませた対話と問題の概要：

1) 主：「わたしはあなたがたを愛した。」（マラキ書1:2a）。

祭司たち：「どのように、あなたは私たちが愛して下さったのですか。」（マラキ書1:2b）。

主：「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ。」（マラキ書1:2c-5）。

2) 主：「子はその父を敬い、しもべはその主人を敬う。それでわたしがもし父であるならば、あなたがたのわたしを敬う事実が、どこにあるか。わたしがもし主人であるならば、わたしを恐れる事実が、どこにあるか。わたしの名を侮る祭司たちよ、」（マラキ書1:6）。

祭司たち：「どのようにして、あなたの名を蔑みましたか。」（マラキ書1:6）。

主：「あなたがたは、わたしの祭壇に汚れたパンを献げた。」（マラキ書1:7a）。

3) 主：「汚れたパンを捧げた。」(マラキ書1：7a)。

祭司たち：「どのようにして、私たちがあなたを汚しましたか。」(マラキ書1：7b)。

主：「あなたがたは、盲目の動物を献げるが、それは悪いことではないのか。」「足の萎えたものや病気のを献げるのは、悪いことではないのか。さあ、あなたの総督のところにそれを差し出してみよ。彼はあなたを受け入れるだろうか。あなたに好意を示すだろうか。．．．(そのように、侮りを示すくらいなら、もはや神殿を閉鎖し、いけにえを全面的に禁止した方がよい。(10節)．．．まことに、国々の間で偉大なのは、わたしの名。」(マラキ書1：7c-12)

4) 主：「あなたがたは、わたしに仕えるための重荷と、わたしの注意とあなたがたのささげ物への反応の欠如について叫び、不平を言う。」(マラキ2：13)。

祭司たち：「なぜあなたは、私たちの犠牲を受け入れられないのですか？」(マラキ書2：14)。

主：「あなたの若い時の妻を裏切り、結婚契約を破り、非ユダヤ人の女をめとるために、妻を離婚した。わたしは離婚を憎む(マラキ書2：14b-17)。(参照：エゼキエル16：8；ルツ記3：9 神は、離婚について、夫が妻の衣をはがす行為であると言われる。)

5) 主：「あなたがたは、あなたがたのことばで主を煩わした。」(マラキ書2：17a)。

祭司たち：「どのようにして、私たちは煩わしたのか。」(マラキ書2：17b)。

主：「悪を行うものもみな主の心にならなっている。」ということによって。または「裁きの神はどこにいるのか。」ということによって」(マラキ書2：17c)。

6) 主：「あなたがたの先祖の時代から、あなたがたは、わたしのおきてを離れ、それを守らなかった。わたしのところに帰れ。そうすれば、わたしもあなたがたのところに帰ろう。」(マラキ書3：7a)。

祭司たち：「どのようにして帰ろうか。」(マラキ書3：7b)。

主：「人は神のものを盗むことができようか。」(マラキ書3：8a)。

7) 主：「人は神のものを盗むことができようか。」(マラキ書3：8a)。

祭司：「どのようにして私たちはあなたのものを盗んだでしょうか。」(マラキ書3：8b)。

主：「それは、十分の一と奉納物によってである。あなたがたはのろいを受けている。十分の一をことごとく、宝物小屋(わたしの家)に携えてきて、．．．わたしがあなたがたのために、天の窓を開きあふれるばかりの祝福をあなた方に注ぐかどうかを試してみよ。」(マラキ書3：8c-12)。

8) 主：「あなたがたは、わたしに頑ななことを言う。」(マラキ書3：13a)。

祭司たち：「私たちはあなたに対して何をいいましたか？」(マラキ書3：13b)。

主：「あなたは言う、『神に仕えるのはむなしいことだ。神の戒めを守っても、万軍の主の前で悲しんで歩いても、何の

益になろう。今、私たちは、高ぶるものを幸せものと言おう。悪を行っても栄え、神を試みても罰を免れる。(マラキ書3:14-15)。

### イスラエルの民、神の愛に関する疑念： 第1章1-5節

神が、定義された最初の問題は、神が選ばれた民の心中に抱く神の愛に関する疑念でした。

**1:2** 主は言われる、「わたしはあなたがたを愛した」と。ところがあなたがたは言う、「あなたはどんなふうに、われわれを愛されたか」。主は言われる、「エサウはヤコブの兄ではないか。しかしわたしはヤコブを愛し、**1:3** エサウを憎んだ。かつ、わたしは彼の山地を荒し、その嗣業を荒野の山犬に与えた」(マラキ書1:2-3)。

エサウとヤコブは兄弟でした。しかし、神はイスラエルの家系を生み出すために、ヤコブを選ばれた。神は、エサウやその子孫(エドム人)を文字通り「憎」まれたわけではなかった。イエスは弟子たちに「憎む」という語を用いられた：「だれでも、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命までも捨てて、わたしのもとに来るのでなければ、わたしの弟子となることはできない(ルカ14:26)。重要であるのは、神の長子であるヤコブ(イスラエル人)に対する神の愛は、非常に特別であったということである(けれども、捕囚後の苦難のためにイスラエルの民はそれを疑っていた)。エドムの地が荒廃した理由は、何世紀にもわたって、イスラエルに対し厳しく扱い、イスラエルの神を唯一の真の神として認めることを拒否し続けたためである。イスラエルは、神による懲らしめの後、土地に戻され

たが、誇り高きエドム人は罰せられ、土地が返還されることはなかったと神は言われた。

霊的な成熟の最も重要なステップの1つは、疑いの念を超えて、神が私たちを愛しておられるという確信にたどり着くことです。使徒ヨハネが次のように記しました：愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く。恐れには懲らしめが伴い、かつ恐れる者には、愛が全うされていないからである(第一ヨハネ4:18)。使徒パウロは、次のように記しています：高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである(ローマ人への手紙8:39)。もちろん、私たちの神である父は、その子どもたちを忠実に懲らしめられるでしょう(ヘブル人12:10f)。しかし、それも含めて、私たちに対する神の愛のしるしです。頻繁に、愛が条件付きの家庭環境の中、つまり私たちの業績に基づいて愛されて育った場合、神の無条件の愛を受け入れて、そこに憩うことは非常に困難です。「何が神の愛を疑わせているのか。」とじっくりと自問して、答えを追求してみましょう。

### イスラエル、傷のある犠牲によって、神を軽視する： マラキ書第1章6-14節

モーセの律法では、傷のない最良の動物だけが神への犠牲の献げものとして認められていた。この定めが重要であった理由が三つある。1) 最良の動物を犠牲に献げるという行為は、罪の問題の深刻さと罪を贖うための代価がいかに大きかったかを個人に思い出させる。2) 傷のない犠牲だけが、神の神聖さ、威厳、完全さを描写することができた。3) 動物の犠牲は、いつの日か、この世に来られ、人類の罪を取り除

くための完全な献げものとなったださる神の子羊 (イエス・キリスト) を象徴した。これらの理由から、罪のない神の子羊 (メシア、イエス・キリスト) の完全さを正確に描写するために、人々が神に献げる動物の犠牲は傷がないものである必要があった。それでも、イスラエル人は、傷のある犠牲動物を神に献げていた。

**1:8** あなたがたが盲目の獣を、犠牲にささげるのは悪い事ではないか。また足のなえたもの、病めるものをささげるのは悪い事ではないか。今これをあなたのつかさにささげてみよ。彼はあなたを喜び、あなたを受け入れるであろうかと、万軍の主は言われる (マラキ書 1 : 8)。

イスラエルの民は、最も無価値な、処分すべき貧弱な、病気や欠陥のある動物を神に献げていました。このような行為は、神の偉大さや民が神に負っているすべてを軽視するものであり、神は全く喜ばれませんでした。欠陥のある動物の犠牲は、私たちが心の奥底で、神を真に愛していないこと、神への侮りを示します。黙示録第 3 章 15 - 16 節で、イエスは、神を真に愛していないことを「なまぬるい」と描写されました (熱い飲み物は心地よく、冷たい飲み物はさわやかです。)。今日、私たちが神に献げている可能性のある「欠陥のある犠牲 (なまぬるい献身)」の例を幾つか上げてみましょう。神の働きを象徴しながら、個人的な利益に莫大な金額を費やすことによって、...、中途半端な教会への出席と奉仕を通して、...、神と神のお目的のために奉仕する時間や才能の一部を献げないことによって、...、個人的な妥協や、罪深いあり方に対して寛容になることによって、...、私たちの心と思いを神のみ言の追及に個人的に、また共同体で適用することに怠ることを通して、...、私たち自身をイエス様の従者として特定することへの恐れを通して、...、私たちの言動を通し

て、...、あるいは、教会における「礼拝」の際、心の中で「礼拝」できていないことを通して、...、今日、あなたが神への「献げもの」において、神を軽視している方法を明らかにしていただくよう神に祈り求めましょう。

神は、イスラエルの民が怠慢によって、欠陥のある犠牲の献げものを献げているので、そのように侮りを示すくらいなら、もはや、それを防ぐために神殿を閉鎖して、いけにえ (中途半端な礼拝を捧げる行為) を全面的に禁止した方がましであると言われた。

**1:10** あなたがたがわが祭壇の上にはいたずらに、火をたくことのないように戸を閉じる者があなたがたのうちに、ひとりあったらいいのだが。わたしはあなたがたを喜ばない、またあなたがたの手からささげ物を受けないと、万軍の主は言われる。**1:11** 日の出る所から没する所まで、国々のうちにわが名はあがめられている。また、どこでも香と清いささげ物が、わが名のためにささげられる。これはわが名が国々のうちにあがめられているからであると、万軍の主は言われる (マラキ書 1 : 10, 11)。

神は、そのお名前が、あらゆる国々の間であがめられることを望んでおられます。そもそも神がイスラエル国家を「祭司国家」として選ばれたのは、そのためでした (出 19 : 5, 6)。これは聖書全体のメッセージです：「日のいずるところから日の入るところまで、主のみ名はほめたたえられる。」 (詩篇 113 : 3)。旧約聖書の終わりの時代にも、神は、イスラエルの助けがあろうとなかろうと、その名が国々の間で知られるようになり、あがめられるようになることを、預言者マラキを通して約束されました。今日、神は、あなたの影響力の範囲で、神の御名が知られ、あがめられるために、あなたをどのように用いたいと願っておられるでし

ようか。次の信仰の祈りを祈りましょう：「神様、私は、あなたのお名前が知られるようになるための器として、あなたに用いていただきたいと願っています。私は、他の人があなたを見、あなたについて、もっと知ることに関心をそそられるように、あなたを展示したいと願っています。あなたが、私を通して、そのようになさりたいと願っておられる事柄を明らかにしてください。私は喜んで、御心に従います。私を通してあなたの御光といのちを明らかにしてください。」

### レビの祭司たちに対する神の叱責： 第2章1－9節

イスラエルは、世に神を展示する「祭司国家」であるはずであった。イスラエル12部族の中の一つ、レビは、祭司部族として、神殿の中で日々神に仕える者として選ばれた部族であった。彼らの役割は、犠牲システムを維持するだけでなく、神のみ言と方法について、人々に教え導くことであった。しかしながら、悲しいことに、マラキ書には、この祭司たちが、神を展示することに躓いた事実が明らかにされている。その結果、イスラエル国家の霊的生活に悪影響を及ぼした。こうして、神は、これらの霊的指導者たちに対して、厳しい言葉を発せられた。

**2:5** 彼と結んだわが契約は、生命と平安との契約であって、わたしがこれを彼に与えたのは、彼にわたしを恐れさせるためである。彼はすでにわたしを恐れ、わが名の前におののいた。**2:6** 彼の口には、まことの律法があり、そのくちびるには、不義が見られなかった。彼は平安と公義とをもって、わたしと共に歩み、また多くの人を不義から立ち返らせた。**2:7** 祭司のくちびるは知識を保ち、人々が彼の口から律法を

尋ねるのが当然である。彼は万軍の主の使者だからだ（マラキ書2：5－7）。

上記の神のみ言が示すように、イスラエルの歴史の中で、レビ部族が神の指示に従って忠実に仕えた時期があった（旧約聖書の「レビ記」は、祭司のための手引きであった）。レビ部族の特定の祭司は、忠実であった者もいた。モーセとその兄弟アロンは、レビの子孫であった（出エジプト記6：16－25）。彼らの子孫、ピネハスは、イスラエルの民の間に立ち、罪が横行する国家に義を回復させたとき、神を展示した（民数記25：1－13）。しかし、悲しいことに、レビ部族の子孫の歴史を通して、真に主を愛し、心を尽くして主に仕えた祭司は、比較的少数であった（アロンの4人の息子のうちの2人でさえ、祭司たちがどのように振舞い、犠牲を捧げるのかについての神が定められた新しい法律に従わなかった）。バビロンがエルサレムに侵入し、ソロモンの壮大な神殿を崩壊するに至り、祭司たちは長期間墮落してきており、真の神の礼拝へと人々を導く役割は果たせていなかった。

バビロン捕囚とペルシャ捕囚の計70年間の捕囚の後、神が最初に人々に定められた、真の礼拝の方法に従って、やり直したいと願う新しい熱意と数人の熱心な祭司が存在した。

しかし、預言者マラキの時代までには、祭司職は腐敗してしまっていた。（この自己制御の罪のパターンは、400年後のキリストの時まで続く。パリサイ人とサドカイ人は、非常に墮落しており、人々を忠実な信仰へと導くどころか、神の教えから遠く遠ざけてしまっていた。）

**2:8** ところが、あなたがたは道を離れ、多くの人を教えずにまずかせ、レビの契約を破ったと、万軍の主は言われる。**2:9** あなたがたはわたしの道を守らず、律法を教えるに当たって、人にかたよったがために、あなたがたをすべての民の前に侮られ、卑しめられるようにする」（マラキ書2：8，9）。

霊的リーダーシップは、主から委託された重大な役割です。霊的リーダーシップを軽視してはいけません。使徒ヤコブが次の警告を書いたのはこのためです：「わたしの兄弟たちよ。あなたがたのうち多くの者は、教師にならないがよい。わたしたち教師が、他の人たちよりも、もったきびしいさばきを受けることが、よくわかっているからである（ヤコブ 3：1）。」あなたは霊的リーダーの立場におられますか。もしそうなら、主と共に謙虚に歩み、あなたの発する言葉と歩みの両方によって、他の人を神の真理に向けるという高い召しを委ねられていることを悟りましょう。あなた自身が成長し続けておられることも大切です。あなたが取り入れ、忠実に適用しようと努力しておられることしか人に与えることは出来ません。

### 離婚の問題： 第2章10－17節

離婚は、捕囚帰還後のユダヤ人共同体の深刻な問題であった。しかし、問題は離婚だけではなかった。イスラエルの神であるヤハウエへの信仰を持たない異国の女と再婚する目的で、年老いたユダヤ人の妻を離婚していた。これは、イスラエルの民がエジプトを脱出した時から繰り返されてきた問題であった。ソロモンのような偉大な王でさえ、多くの外国人の妻たちをめぐったことによって、心が妻たちの神々に向く結果を招いた。ユダヤ人の老いた妻と離婚していた男たちは、まるで、何も問題も無いかのごとく、神を崇拜し続けていた（参照：ネヘミヤ記13：23）。ユダヤ国家は、外国の神々を礼拝する女と結婚してはならないという神の命令を無視することによって、何世紀にも渡って高い代償を払ってきた。しかし、

異国の女と再婚するために老いたユダヤ人の妻を離婚することはより卑劣であった！

**2:13** あなたがたはまたこのような事をする。すなわち神がもはやささげ物をかえりみず、またこれをあなたがたの手から、喜んで受けられないために、あなたがたは涙と、泣くことと、嘆きとをもって、主の祭壇をおおい、**2:14** 「なぜ神は受けられないのか」と尋ねる。これは主があなたと、あなたの若い時の妻との間の、契約の証人だったからである。彼女は、あなたの連れ合い、契約によるあなたの妻であるのに、あなたは彼女を裏切った。**2:15** 一つ神は、われわれのために命の霊を造り、これをささえられたではないか。彼は何を望まれるか。神を敬う子孫であるゆえ、あなたがたはみずから慎んで、その若い時の妻を裏切ってはならない。**2:16** イスラエルの神、主は言われる、「わたしは離縁する者を憎み、また、しえたげをもってその衣をおおう人を憎むと、万軍の主は言われる。ゆえにみずから慎んで、裏切ることをしてはならない」（マラキ書2：13－16）。

神は、神を愛し、崇拝する家族を育てる多くの国を築くために、敬虔な国を築くことを願っておられた。

離婚の問題についてイエス様に尋ねる者がいたとき、それは神の結婚計画の一部ではないと明確に述べられました。また、離婚が可能な理由は、唯一、夫または妻が姦淫によって結婚契約を破ったときです。また、その場合でも、イエス様は、「無制限の赦し」についてのたとえ話を用いられました（参照：マタイ18：21－19：12）。重要であるのは、神の御心は、夫婦が結婚の誓いを果たすために結婚関係を優先し、一生添い遂げることです。神の御前における誓いが破られた場合の最善の選択肢は、その罪を悔い改め、御霊による赦しと

修復を求めることでしょう。悔い改めない不誠実さ（裏切りや虐待を含む可能性がある）の場合にのみ、離婚も考慮されるべきです。

### 来たるメシアの先駆者： 第3章1－5節

捕囚帰還後のユダヤ人共同体が神とその御心に不忠実であったにもかかわらず、神は、その民と交わされた契約において忠実であり続けられた。第3章は、主の到来のための道を整える先駆者（洗礼のヨハネ）の明確な預言である。

**3:1** 「見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると、万軍の主が言われる（マラキ書3：1）。

上の箇所には二つの約束が含まれる。一つ目の約束、「使者をつかわす」は、バプテスマのヨハネ（エリヤの御霊による）がイエスの先駆者として来たことによって成就した（参照：マタイ3：1－3、11：10、マルコ1：2、ルカ第7章）。二つ目の約束は、「契約の使者」であったキリストに言及している。キリストだけが、その清く、罪のないいのちをもって、人類の罪のための完全な献げものとしてのモーセの律法の要件を満たした。キリストは、弟子たちと過ごされた最後の夜に預言された通り、ご自身の血によって、恵みによる新しい契約へと導かれた。

### 人々は神のものを奪っている： 第3章6－12節

十分の一献金（収入または農産物の1/10を神にお返しすること）は、献金に関する旧約聖書の基準であった（参照：レビ記27：30－34）。人々の十分の一献金の殆どは、レビの祭司とその家族、そして神殿での彼らの義務を支援するために用いられた。しかし、イスラエルの人々は繰り返し神に十分の一を納めることができなかつたので、頻繁に礼拝体制は崩壊し、時には完全に停止した（参照：ネヘミヤ13：10、11）。神は、旧約聖書のこの最後の本であるマラキ書の中で、それが実際にどういうことであるかを民に悟らせるために「神のものを盗んでいる」と表現された。

**3:2** その来る日には、だれが耐え得よう。そのあらわれる時には、だれが立ち得よう。**3:8** 人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。**3:9** あなたがたは、のろいをもって、のろわれる。あなたがたすべての国民は、わたしの物を盗んでいるからである。**3:10** わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる（マラキ書3：8－10）。

神は、このイスラエル国家に対するチャレンジとお約束の中で、国家全体への祝福、つまり、作物や家畜不足、出産における豊かさへの逆転について語られた。神は、今日も、私たちに「献げる」よう勧告しておられ、天の窓を開きあふれるばかりの祝福を注いでくださることを約束しておられる。

「いつ」または、「どのように」祝福してくださるかは、完全に神に委託する必要がある。

十分の一献金を差し控える人は、「神のものを盗んでいる」と神が言われるのはどういうことでしょうか？それは、私たちが所有しているものはすべて、そもそも神からの贈り物であるということです。私たちは、神の資源の管理者であり、所有者ではありません。「資源を稼いでいる」からといって、それらの所有権を主張する権利があるという意味ではありません。そもそも私たちが働く能力を可能にしてくださっているのが神です。神が、世界での神の働きのためにお用いになられるために、私たちの十分の一の収入を返すようにと求められるとき、単に、もともと神のものを求めておられるというわけです。献金は十分の一です。新約聖書では、十分の一以上の献金ができることが推測されています。「できる限り」与えることが奨励されています（参照：コリント人への手紙第2：8，9）。さらに神は、私たちに信仰によって歩み、今後の神による備えについては、ただ神に信頼するようとおっしゃっています。あなたは、主のものを主に、忠実にお返ししておられるでしょうか？神は、イスラエルの民に、十分の一献金の問題に関して、もし、彼らが忠実に十分の一献金を行うならば、主が彼らのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福を注いでくださるかどうかを「ためしてみよ」と言われた。神の働きへのあなたの関与を見直すように呼び掛けておられます。あなたは神のものを盗んでおられますか？もしそうであるなら、神が忠実にお約束された喜びと報酬をも自分から奪っていることとなります。

### 誓いの覚え書き： 第3章13－18節

何人かの人々は、神に仕えるのは時間の無駄であり、神のいない者の足跡をたどったほうがよいと秘かに「考え」ていた。

**3:14** あなたがたは言った、『神に仕える事はつまらない。われわれがその命令を守り、かつ万軍の主の前に、悲しんで歩いたからといって、なんの益があるか。 **3:15** 今われわれは高ぶる者を、祝福された者と思う。悪を行う者は栄えるばかりでなく、神を試みても罰せられない』」（マラキ書3：14，15）。

この箇所と同じ感情（邪悪な者の表面的な繁栄への嫉妬）は、詩篇第73篇の主題でもある。詩編作家が指摘したように、邪悪な者の繁栄をうらやましく思うことは近視眼的な見方であり、忠実に神のために仕える者のために天に用意してくださっている報酬について重視できていない。ヘブル人への手紙第11章に記されている教え、永遠に豊かな祝福を受ける人々の例として、忠実な聖徒たちが具体的に言及されている。

預言者マラキを通す、神の強い叱責に応じて、主を恐れる者は、神の道を歩もうとすることを誓う巻物に自分の名前を記した。

**3:16** そのとき、主を恐れる者は互に語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書が生かされた。

**3:17** 「万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。

**3:18** その時あなたがたは、再び義人と悪人、神に仕える者と、仕えない者との区別を知るようになる（マラキ書3：16－18）。

マラキ書を通して、神は、私たち一人一人を個別に見ておられことを思い出させてくださっている。誰が神との関係を心から大切にしているのかを知っておられ、それは神に喜びをもたらす。神を愛する人々を神に属する大切な者として主



張してくださる。成熟した信者とは、主がもたらして下さる喜びと祝福のことよりも、主に喜びをもたらすことに関心を持つ信者である。主を敬虔に恐れ、主の御名を敬うことは、私たちが日々主にささげることができる最高の献げものである。主がいつか私たちを祝福して下さることを知ることはご褒美である。

### 神との契約の従順を求められる神の最後の呼びかけ： 第4章1-6節

旧約聖書における神の最後のみ言は非常に魅力的である。

1. 神が邪悪を一掃され、地上に永遠の義をもたらして下さる日が来る（マラキ書4：1-3）。悪を行う者にとって、その日のすさまじい輝きは焼き尽くす火のようである。しかし、神を敬う者は、その日の癒しの光の中にあって喜ぶ。
  2. モーセの律法を忘れてはならない。1000年経過しても、神は、人々を神との契約に対する従順へと呼び戻そうとしておられる。
  3. 新しい「エリヤのような預言者」が主の道を整えるためにやって来る。マラキ書が閉じられた後、残されたイスラエルの人々は、エリヤの様な預言者は、いつ現れるのかと待ち焦がれていたに違いない。
- 4:5** 見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。**4:6** 彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである」（マラキ書4：5，6）。

マタイの福音書第17章11節に、「**確かに、エリヤがきて、万事を元どおりに改めるであろう**」とある。聖書学者たちは、モーセとエリヤが、聖なる週（イエスが私たちの罪のために十字架にかけられ、苦しみを受けられ、死なれ、葬られ、三日後に蘇られる週）に入る前に、オリーブ山でイエスに会ったように、キリストの再臨の前に証言する2人の証人もまた、モーセとエリヤであると提案している（参照：黙示録11-3-12）。マラキ書の締めくくりは「呪い」であると、アーヴィング・ジェンセン著書の「マラキ書の学び」の87頁に記されている。神が、人類に呪いをかける必要がない状態にしてくさるために、遣いを送ってくださる。その遣い、キリスト（**Christ**）は、「私たちの呪い（**curse**）」を身代わりとなって受けてくださった。神の希望と贖いの究極の使いであるキリストは、彼を信じる人々のための救い主となられるために、初臨された。預言者マラキヤその他の多くの預言者たちと同様に、キリストを信じ、忠実な遣いとなることが可能な、この歴史的機会をどうぞ逃さないでください。

### ディスカッションの質問

1. 旧約聖書の神から民への最後の言葉（マラキ書）の中で、あなたにとって最も際立つ教訓は何ですか。あなたは神の御心について何を学ばれたでしょうか？
2. 預言者マラキのメッセージの多くは、神にふさわしい名誉と栄誉を与えることと関係があります。人生で、どのようにして神をもっと尊敬することができますか？
3. マラキ書は、人々が人生について抱いている疑問の多くを明らかにします。「神は本当に私たちを愛しておられるのか？」「神に仕える価値はあるのか？」「この世界で神の正義はどこにあるのか？」「神は私たちに何を望んでおられるのか？」あなたの疑問と重なっているのでしょうか？神について、その他にも質問がありますか？